



根雨のまちを知り 日野高生の視点でまちづくりを

▶日野高等学校フィールドワーク『根雨街道てくてくインタビュー』

日野高等学校の生徒が郡内のまちなかへ出かけ、普段の学校生活の中ではできない発見や体験を通して、日野高生の視点でまちづくりの提案などを行うフィールドワークが、3月17日に根雨地内で行われました。

今回は、穏やかに晴れた根雨のまちなかで日野高生 14 人がインタビューなどを行いました。

日野高校生がまち歩き 根雨を知り地域の人と交流

今回のまち歩きに向けて、2月に校舎内で模擬フィールドワークを行っていた生徒たち。はじめに、日野高校魅力向上コーディネーター・片平誓子さんから、あいさつやインタビュー時の注意点など、まち歩きマナーの確認が行われました。

また、奥日野ガイド倶楽部の杉本準一さんから、根雨のまちの紹介などが行われ、「知れば知るほど面白いまちが『根雨』です。みんな、たくさん聞いて知って、楽しみましょう」と、生徒たちを激励しました。

生徒たちは説明を受けた後、早速2〜3人のチームに分かれ、インタビューする人、写真係、記録



サポーターと一緒に指令書をもとに目的地を探す

係を決め、まち歩きの準備を行いました。そこで、片平さんが生徒一人一人に、訪問先のヒントのみが書かれている「指令書」を手渡ししました。受け取った生徒たちは、不安と期待の顔をのぞかせながら、ヒントと地図を頼りに、根雨のまちへ出かけて行きました。

地域の人へ丁寧インタビュー 「またいらっしゃいね」という声も

まち歩きに協力したのは、雑貨店や書店、酒屋、飲食店などの商店や神社、寺といったさまざまな業種の皆さん。各チームに同行する郡内在住のサポーターに見守られながら、訪問先を探し出してきました。

「根雨の良いところ、残念なところはありますか」「これからのまちの



ヒントを手がかりに目的地を発見！



地域の人のお話に熱心に耳を傾け、メモを取る様子が見られました



昔ながらのネズミ取りについて話が盛り上がる



並べられた懐かしの写真で根雨の歴史を知る

課題を教えてください」といったまちについての質問から、「若者に望むこと」「根雨のシンボルは？」などの質問をしていきました。生徒らは、地域の人の話に時折笑顔を見せながら耳を傾けていました。温かく出迎えた皆さんからも「またいらっしゃいね」といった声が聞かれ、生徒との交流を楽しんでいる様子が見られました。

地域とのつながりをつくり 生徒の視点でまちづくりを

まち歩き後は、インタビュー内容や写真などを、模造紙に貼っていき、地図を完成させていきました。

片平さんは「今日のまち歩きをきっかけに、町内だけでなく、日野郡のいろいろな場所をつながりをつ



インタビューをもとに地図を手作り

くついでいたら」と話し、「今回まとめたものをもとに、生徒たちにもちづくりの提案書を作ってもらい、町長への提出を目指したい」と今後の意気込みを語りました。

生徒と地域をつなぐ ～まち歩き協力者の皆さんの感想～

■奥日野ガイド倶楽部（杉本準一さん）

- ・なかなか地域の人と話す機会のない生徒にとって、新しい体験になったと思う。面白そうにしていると感じた。
- ・まちの人にとっても、これから若い人たちにどう接していったらよいかを考える良い機会になった。まちなかで見かけたら気軽に声かけができるよう、まちの人から歩み寄ってほしい。

■お茶屋おがた（緒形尚子さん）

- ・3人ともコミュニケーションがしっかりとできて、会話に困ることがなかった。
- ・昔ながらの店や地域の人とふれあうことの大切さを感じてもらえたらうれしい。
- ・今回のまち歩きをきっかけに、まちの人やほかの大人と気軽に話ができるようになってほしい。

■佐々木クリーニング（佐々木幸人さん）

- ・地元の高校生が関心を持ってくれるのはうれしい、態度も紳士的で話しやすかった。
- ・今回のような授業が日野郡全体に広がれば、米子市などから通ってくる生徒が日野町だけでなく、日野郡全体に関心を持ってくれるようになる。ぜひこういう取り組みを続けてほしい。
- ・「やらされる」から「自分で考え、自分で行動できる」へ、自分に関心を持ったところへ飛び込んでいけるようになってほしい。



■大江商店（長谷川充江さん）

- ・ちゃんと人の目を見て、話ができている。話をすれば、良い子たちばかり。
- ・これをきっかけに、高校生へ気軽に声かけや交流ができるようになればうれしい。